
小学校と…

風唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小学校と…

【Nコード】

N9779A

【作者名】

風唄

【あらすじ】

ある晩、私が小学校の近くを散歩をしていると、小学校から、朱い光りが見えました、その小学校は私の母校で、私は入ってみることにしました。

これは、残暑も過ぎ、涼しくなった時期の、とある小学校での、出来事、

…ある晩、私は犬の散歩をしていました、

犬の散歩は日課であり、私はいつもの道を歩いていました、

暫く歩いた後、母校であるM小に差し掛かりました、

いつもならばM小の前の道路を通るのですが、今日は何の気まぐれが…

昔から不気味だった裏道を通り始めました…

表なら少ないながらも車も通りますが、

裏道は、森と小学校の間に通っており、街灯もなく、暗い道が数百メートル続いています、

とても不気味です…

私は…さっさと通り過ぎようと早足で歩き過ぎようとしたが、ふと、右の小学校を見ってみました…

そこは、祝日だったからでしょうか、

それとも最初からやっていたのでしょうか、

宿直の先生すらいる気配すらなく真っ暗闇の中で、人の気配すらあ

りませんでした、

ただ、下駄箱で電気が…

ピカッ、ピカッ、つと、点いたり消えたりしていました…

それと…三階の…おそらく教室でしょうか、

そこに、紅いぼやけた光りが…存在していました、

…紅い、不気味なような、それでいて綺麗な光りを放ってました、それは、非常灯なんかの類ではありません、

場所的に有り得ないし、階段のところには、はっきりとした光りで、非常灯が輝いているのが見えます、

明らかに、別の類のものです、

ただ、私は不気味だな、と思いました、
ですが、所詮、ただの小学校です、

昼間は小学生がおり、

おかしいものがあるはずがありません、

ましてや、霊的現象など、あるはずがありません、私は信じておりません、

ただ、少し、ぼーっと見ていたのがいけなかったのでしょうか、
私はうっかり手に持っていた犬のロープを放してしまいました、
犬は私がぼーっと見ていたのに痺れを切らしていたのでしょうか、直ぐさま走り去り、暗闇に溶け込んでいきました、

犬はあっという間に見えなくなり、私は闇の中に取り残されてしまいました、

私は慌てて、犬を追い掛けましたが、全く見つかりませんでした、

元々、私の愛犬は、猫のように気まぐれで、走り回るのが大好きな、犬です、

どこに行ったなど、皆目検討も付きません、

私は途方に暮れました、

ここは家からは大分離れており、家に帰ってくるか、自信がありませんでした、

なので、私は犬を探し始めました、

不気味だなどとはいってられません、私は暫く探しました、

：しかし、犬はいません、

気まぐれな犬のことだ、もう家に帰ってるかもしれない、と考え、私は家に帰ろうとしましたが、

小学校の玄関辺りで、何かが動いているのが見えました、犬がいた、と思い、私は走って向かいましたが、着いた頃には犬らしきものはおらず、辺りも真っ暗で何だったのかはわかりませんで

した、

ただ、不自然に小学校の玄関のドアが開いていました、

明らかに不自然でしたが、私は、もしかしたら犬がいるかもしれない、と言う考え四割と、懐かしさ五割、それと、なにか面白いことがあるかもしれないと言う期待一割で中に、入ってみることにしました、

中は、とても懐かしく、昔と、あまり、変わっていませんでした、靴を脱ぎ、暗かったのでケータイのライトを使い、中に入っていました、

この学校は、三階建てで、

一階が、一年、二年の教室に、職員室、保健室、

二階が、三年、四年の教室に、視聴覚室、

三階が、五年、六年の教室に図書室、

もう、通っていたのは十数年ほど前になりますが、

はっきりと覚えてみます、

：これも変わっていないければの話ですが、

しかし、見る限り内装が変わってません、改築はされていないようですので、構造が同じなら、変わっている

わけがありません、

そんなこんなで、私は小学校の中を歩いていきました、

この学校には、下駄箱が二カ所あります、

私が入ったのは東側、こちらから一年の教室、中央に職員室、保健室、二年の教室があります、

二階には同じように三年、視聴覚室、四年、

三階にも五年、図書室、六年と続いています、

そして、各玄関を少し行ったところに階段とトイレがあります、

理科室や音楽室等は別の校舎にあります、

そんな中、私はまず、一年の教室に向かっていきました、

ガラガラつと音を立ててドアが開きます、

そこには、一年生らしい小さな机と椅子、壁には一面に様々な絵が飾ってありました、

ほほえましい光景が広がっていましたが、長居する理由もないため、教室を後にして、職員室に向かいました、

職員室には流石に誰か教師が残っていると思いました、

しかし、よく考えれば電気がついていないのに、誰かがいるはずはありません、

しかし、とりあえず、私は校舎内を歩き出しました、

職員室内はひんやりと涼しく、勿論、人の気配はありませんでした、

私は誰かいませんか、と声をかけてみましたが、勿論、返事があるはずがありません、

私は、ホッとしたような、残念な気持ちになりながらも、少々悪戯心がわき、各部屋の鍵を借りようと思いましたが、そこに、鍵はありませんでした、

おかしいなと思いつつも、私は職員室を後にして、二年の教室に向かいました、

しかし、二年の教室には鍵がかかっていて、開きませんでした、

私は少しがっかりしながら、上の階に歩いていきました、

二年の教室の方から階段を上ったのです、そこは四年の教室です、

四年の教室にも鍵がかかってました、

一年の教室だけは鍵を閉め忘れたのでしょうか、

とにかく、私は歩き出しました、

隣の視聴覚室はパソコン室と名前を変えていました、

私は少しの願望を込めて、ドアを引くと扉はガラツと音を立てて開きました、そこは、私がいたときとは見る影もなく、全く変わっており、無駄なほどに近代化しておりました、

やはり時代なのでしょう、

私は少し寂しくなりながら、視聴覚室をあとにして、三年の教室に

向かいました、

歩いていましたが、前の階段に何か、白い影が見えました、明らかに犬くらいの大きさではなく、中学生か、或は小学生か、おそらく小学生くらいなのでしょう、忘れ物でもしたのでしょうか、

私は不信になりながらも、白い影を追い掛けました、

白い影は階段を登って三階に向かっていきました、

私は走って階段を登っていきしましたが、日頃の運動不足がたたき、すぐに息が切れました、

しかし、何とか階段を登り切ったところで、追い付くことが出来ませんでした、

私は彼（と思う）に声をかけました、
彼はビクツとしてこちらを振り向きましたが、その表情はすぐに安堵に変わりました、

私は彼に質問しました、
どうしたのか、と、

彼は笑顔で忘れ物、と、
言って、鍵を見せました、

彼はついてくる、と聞きましたので、私はああ、と答えました、

彼を見ていると、私は何か懐かしい気持ちになりました、

それは、小学校が懐かしいからでしょうか、

それとも、ほかの理由からなのかはわかりません、
しかし、不思議と心地よかったです、

私は、彼と他愛もない話をしながら、歩いていきました、

そういえば、忘れていましたが、外から見た朱い光りは、見当たり
ませんでした、

私は彼にどこに忘れ物をしたのかと聞くと、彼は、六年三組と笑い
ながら答えました、

六年三組、私が六年の頃の教室です、
私が彼に、私も三組だったんだよと言うと、彼は目を伏せ、悲しそ
うにそうなんだ、一言呟きました、

私は何か悪いことをいったのでしょうか、

なんだかいたたまれない気持ちになりましたが、
次の瞬間には彼は笑顔になっていたので、私は安心しました、

それから、私と彼はゆつくりと歩きながら他愛もない話をしていました、

五年の教室を過ぎ、図書室が過ぎ、六年一組が過ぎ、二組が過ぎ、三組に差し当りました、

そこは至って普通の教室で、特別変わったところはありません、あの時：最後に見た光景とは何も変わっていない、ように思えました、彼がカチャカチャ音を立て、鍵を開けました、

カチャツと音を立てて鍵が開き、ガラガラツと音を立てて扉が、開きました、

私は自分が最後に座っていた椅子に座り、昔のことを思い出していました、

その時、はっと思い出しました、

忘れ物をしたと言ってた、彼：いや、彼女の正体を、

黒板の隣の壁に彫った私と、彼女の名前を、

黒板のうえに隠した、二十歳になったら読もうと言っていた手紙を、

私は、教卓によじ登り、黒板のうえを探ると、そこには古ぼけ、黄

ばんだ手紙が二つ、埃を被ってました、

それは、私宛と、彼女宛の二つの手紙が、

そして、私が振り返ると、そこには笑顔の彼女から、ありがとう、と聞こえました、

私は気付いたら校舎の裏道に立っていました、

手には犬のたずなど、私の名前の横に、ありがとうと書き加えられた黄ばんだ手紙が、しっかり握られていました、

(後書き)

最後までお読みいただきありがとうございましたm〔mこの作品は途中でかなり方向変換したあげく、中途半端にノンフィクションも混ざってるため、無駄な部分が多々ありますが、その辺りは御愛嬌と言うことで勘弁してください(ゝゝA

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9779a/>

小学校と…

2010年10月10日01時19分発行